

施策番号	2304		
施策名	環境に配慮され、だれもが使いやすい建築物の誘導		
概要	建築物の総合的な環境性能を評価するシステムに京都独自の基準を組み込んだ制度（CASBEE京都）の活用や、建築物バリアフリーに関する制度の見直しを行うことなどにより、環境に配慮され、だれもが使いやすい建築物への誘導を図る。		
担当局・部室	都市計画局・建築指導部	共管局・部室	
上位政策	23 建築物		
施策に関係する 主な分野別計画等			

施策の評価

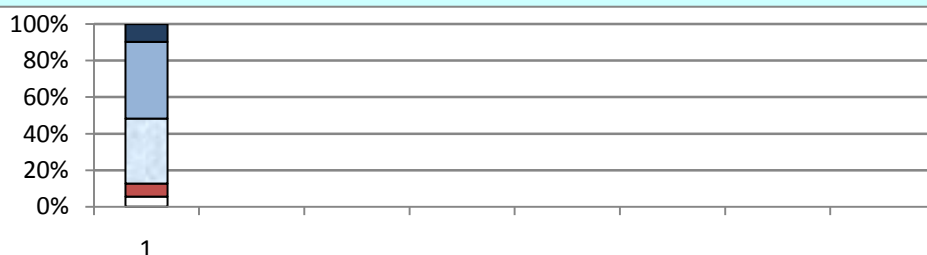
1 客観指標評価

指標名		年度	23年度	24年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウェイト
1	CASBEE京都の届出件数(件)	-	-	-	74	70	105.7%	a	1.00
2	バリアフリー優良建築物の件数(件)	-	a	416	359	500	71.8%	e	1.00
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
			a	客観指標総合評価				c	

2 市民生活実感評価

*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		24年度回答					有効回答 者数	評価
		そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも言 えない	どちらかと言 うとそう思わ ない	そう思わ ない		
1	バリアフリー化された建物が増えている。	53 9.7%	229 42.0%	194 35.6%	39 7.2%	30 5.5%	545	b
2	-							-
3	-							-
4	-							-
5	-							-
		市民生活実感調査総合評価						b



- そう思う
- どちらかと言とうとそう思う
- どちらとも言えない
- どちらかと言とうとそう思わない
- そう思わない

3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

C	施策の目的がそこそこ達成されている						23 年度	A
	重み付け	☒ 客観指標	c	☐ 市民の実感	b			
(重み付けの理由) 環境配慮建築物やバリアフリー化した建築物は一見しただけでは判断しにくく、市民の実感に反映される要素が薄い。								
(原因分析) ・景気の動向から、住宅用途で着工件数が緩やかに増加していることに伴って、CASBEE京都の届出件数が増えているが、高評価のものの件数が少なかったことから環境配慮への意識は伴っていないものと推測される。 ・バリアフリー対象建築物の協議件数は増加傾向にあるものの、工事に着手されなかったものが多かったため、検査済証交付件数が減少したと推測する。 ・バリアフリー化された建築物が増えつつあり、市民の実感にも反映されていると考える。							年度	-

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		24年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		23年度 決算額	24年度 予算額		
1	建築協定支援事業	11,554	11,404	良い	都市計画局
2	CASBEE京都の普及啓発	20,073	19,180	普通	都市計画局
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

* 予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

・平成23年度から運用を開始した環境配慮建築物や、従前から実施しているバリアフリー整備の誘導について、その考え方や必要性が市民に理解され、社会的に定着したものとなるよう、引き続きパンフレットや優良建築物のHPによる公表等周知や啓発に努める。

施策名	2304	環境に配慮され、だれもが使いやすい建築物の誘導				
指標名	CASBEE京都の届出件数（件）					
担当課	建築指導課		連絡先	2 2 2 - 3 6 2 0		
1 指標の説明						
京都らしい環境配慮建築物を適切に評価・誘導するための京都独自のシステムとして新たに定めた基準（CASBEE 京都）の届出件数						
2 指標の意味						
CASBEE京都は、建築物の環境への配慮の程度を評価する仕組であり、建築主の環境への意識の現われを示す指標						
3 算出方法・出典等						
京都市地球温暖化対策条例（事業担当課調べ）						
4 数値						
	前回数値 22年度	最新数値 23年度	推移	目標値		
				数値	根拠	達成度
数値	-	74	-	70	単年度目標値については、平成32年度目標値を達成するための増加率を勘案して年度ごとに割り戻したものである。	105.7%
	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値		1,000件	32年度	7.4%	適用義務の将来的な拡大と任意提出の見込数の合計をこれまでの確認申請の傾向から推定	
5 評価基準						
最新数値の目標値に対する達成度が a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満						
6 基準説明						
当該指標については、景気動向等による建築物の着工件数の影響が大きいことから、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。						
7 評価結果						
		23	24			
	-	-	a			

指標名	バリアフリー優良建築物の件数（件）					
担当課	建築審査課		連絡先	2 2 2 - 3 6 1 6		
1 指標の説明						
バリアフリー化された建築物（施設）の件数						
2 指標の意味						
「ひとにやさしいまち」に向けた進み具合を示す指標						
3 算出方法・出典等						
算出方法：京都市建築物等のバリアフリーの促進に関する条例に基づく検査済証交付件数 出典：事業担当課調べ						
4 数値						
	前回数値 22年度	最新数値 23年度	推移	目標値		
				数値	根拠	達成度
数値	416	359	57件減	500	過去の建築確認申請の動向等から、条例対象となる建築物を拡大した後の件数を推計	71.8%
	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値		500	32年度	71.8%	過去の建築確認申請の動向等から、条例対象となる建築物を拡大した後の件数を推計	
5 評価基準						
最新数値と前回数値との比較 a：10件以上の増加 b：4件～9件の増加 c：3件の減少～3件の増加 d：4件～9件の減少 e：10件以上の減少						
6 基準説明						
これまでのバリアフリー条例に基づく検査済証交付件数の推移を基に、評価基準を設定。						
7 評価結果						
		23	24			
	-	a	e			